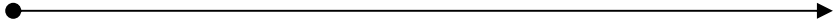



学校選択制について考える

- * うちの中学校は、選択制を利用して学区外から来る子どもが多く、今年1クラス増えて6クラスになった。2・3年は5クラスずつなので、全部で16クラス。
- * 松戸市が言っている適正規模は24学級だから、そこまで増やせるってということ？
- * 規模が大きくなる学校がある一方で、選択制で子どもが出て行ってしまって、小規模になる学校が出てくると、またつぶされてしまう可能性がある。
- * 松戸の選択制は、原則として隣接する学区ということになっているから、近い所で選ばせて、例えば3校あるところを2校位にしたいのか。
- * 今までだって、隣接する学区から通ってくる子どもたちはいる。自転車を途中で置いて通っている子どもも。そんな中で適正規模からはずれる学校をつくっていくんだらうなと思う。適正規模という24学級の学校を一つ作り上げるための努力を必死にしているんでしょう。学区の自由化という名の下に。
- * それぞれの学校に、いいところも悪いところもある。やっぱり地域の学校へ行って、友だち関係・人間関係を作って、育ててほしい。線路をはさんで隣接学区へ行くと、町の様子は違っている。
- * 松戸市が行った学校選択制についてのアンケート結果を見てほしいのですが、「3.どちらの学校へ入学しましたか」という項目では、小学校で89.2% 中学校で88.5%の人たちが従来の学区の学校に入学しています。選択制・申立制を使った人は約1割。
「6.どういう基準で選びましたか」という項目では、「通学の距離・時間・安全性」が全体で28.6%、「学区の学校だから」も28.6%。この二つで60%近くなります。「教育活動の内容」で選んだ人は全体で3.5%しかいない。特色ある学校づくりをして選択をといたって、「教育活動の内容」はほとんど選択基準になっていない。
- * 学習指導要領に基づいて教育を行っているんでしょうから、特色なんてそんなに出るはずがない。
- * それから「10.学校選択制は、地域の教育活動に大きな影響を及ぼすと思われますか？」という項目についての教育委員会の分析は、「小・中学校とも選択制の導入が地域の教育活動に大きな影響はないと思われます」というものだが、「ほとんど影響がない」というのが全体で7.2%、「あまり影響がない」が24.1%で、半数以上の人が「多少影響がある」と答えており、「おおいに影響がある」と答えた人とあわせると68.7%にもなる。3分の2以上の人が何らかの影響があると考えているのに、「大きな影響はないと思われます」という教育委員会の分析は、非常におかしい。本当は、「具体的にどういう影響があると思いますか」ということを聞くべきだったと思う。

お盆を持って、大勢の生徒が大移動？

- 
- * うちの中学校パンクしそうなんですよ。3年生が6クラス、2年生が7クラス、1年生が8クラスと、どんどん増えているんですよ。2年生のあるクラスは、ドアが一つしかない教室を使っている。これ以上増えたら、例えば音楽室が2つ、理科室が2つあるから、そういう特別教室をつぶして普通教室にして使うのかなぁと思います。
- * 今まで余裕教室を使って、ランチルームにしたり、パソコン室にしたりしている。選択制で生徒が増えたら、ランチルームを教室に戻すのか。ランチルームはそもそもただ食べるだけではなく食文化を大切にしようということで作られてきたのに、それをつぶしてしまうのでしょうか。
- * 中学校で学校給食を導入した時に、これから子どもの数がどんどん減ってくるからと言って、それを見越して、食堂は全校生徒が入るだけの大きさにしていないはず。入りきれないクラスのためにランチルームを作ったと記憶している。それなのにランチルームをつぶしてしまったら、教室で食べなくてはいけないクラスが増えてしまう。
- * うちの中学校だって、食堂に1学年しか入れない。1年生なんか8クラスだからとても窮屈。最初に食堂を作る時から、「将来子どもが減るから」と言って、それでいいと。それなのに、選択制で生徒数が増えている。
- * 中学校の給食では、並んでいる時間が長くて食べ始めるまでに時間がかかるから、実質食べる時間はとても短い。まして遠い教室まで持って帰るとなると、もっと短くなってしまう。
- * お盆を持って、大勢の生徒が大移動するって大変なことじゃないですか？ 食堂は、1年生の教室から一番遠い所にある。
- * 選択制になると自分の意志で選べるようになりますというけれど、今後特定の学校に希望が集中すると抽選になるでしょう。抽選になったら「選べる」ということにはならない。
- * 1クラス40人で、学年8クラスまでは抽選ナシで受け入れていくでしょうね。
- * 1クラス40人だと、教室は狭く感じますね。
- * 「昔は45人、さらにその前は50人学級だったんだから、大丈夫よ」という人たちがいますが。
- * 子どもたちの体も大きくなってきているし...。そういう過密な状態は問題があるからって、少なくしてきたのでしょうか。そういうことも考えないと。
- * うちの長女までが45人学級。1学年下の二女から40人学級になった。授業参観へ行っても、長女の教室には保護者が入りきれなくて、いつも廊下から見ていた。
- * 一つの教室の中で、密集して人がいるということだけでもストレスを感じる。
- * 確かに机と机の間が狭い。
- * ゆとりが感じられないですね。

部活で学校を選んでいいの？

- 
- * 学校見学に行きましたけれど、校舎を見る程度。1回や2回くらい行ったからって、

わかりません。

- * 今、私たちが選ぶという立場だと勘違いしている。本当は逆なんだということに気がつかないと、地域から学校がなくなっていってしまう。
- * 「なくなりそうな学校は頑張っ、良くなるからいいじゃないですか」と教育委員会は言う。東京で、去年新生が一人も入らなかった学校は、一生懸命皆で学校を盛りたてて、新生が入ったそうではないですか。
- * 教育委員会は選択制を学校の一つの評価基準と考えているんですよね。子どもや保護者に選ばれることが、学校の評価につながる。選ばれなくて学校がなくなりそうだから頑張るのではなく、そんなことがなくなつてやるべきことでしょ。
- * 公教育で、そんなに差があつていいのかと思う。
- * 選択制を導入するにあたって、教育委員会は「保護者・子どもたちの多様なニーズに対応するために」と言っていた。
- * その多様なニーズの実態を、教育委員会は調査したことがあるのだろうか。子どもたちや保護者にどのような要望・意見があるのかという実態を把握しているのだろうか。
- * 「きちっとした学力を」とか、「社会性を身につけさせたい」とか、「いろんな体験を積んで」とか、そういうことを多くの人が望んでいる。特別なことを望んでいるわけではない。
- * 中学校では、部活で学校を選んでいる人が多いけど、部活で学校を選んでいいのかと疑問。
- * 今、部活で学校間の競争が激しいような気がする。大会も増えている。記録会ばかり。上に上り詰めるための大会が増えている。近隣だけど、遠征も多くて交通費の負担も大きい。
- * 部活の顧問の先生だって、公立の学校だから異動があるでしょう。ずっと同じ学校にいるわけではない。
- * その先生の部活に入りたくて学校を選んだのに、その先生がいなくなって部活がだめになってしまったら、その先生にくっついて学校を移ってもいいんですか？
- * そのための申立制・選択制？ そういうことを教育委員会がオススメするわけ？
- * 今も、中学校では部活は半強制加入でしょ。うちの二女は部活に入りたくなかったのに、部活に入らない生徒のための部を作って強制的に入れられてしまった。長女の時は、部活動とは別に特別活動としてクラブ活動の時間があつた。それが二女の時には、部活動をクラブ活動の代替としてできると指導要領が変わつて、クラブ活動が全くなつてしまった。そうなると部活に入らない生徒に対してはクラブ活動の時間が保障できないから、部活へ強制的に入れられることになつてしまった。クラブ活動なら月に3回くらいなのに、部活だと毎日。非常に疑問だつた。

教育委員会は自ら、学校選択制についての聞き取り調査をしていかななくてはいけない

- * 教育委員会の行った学校選択制についてのアンケートは、全校で行っていませんが、いったいどの学校で行つたんでしょうね。1学年1クラスしかしないのなら、全校で行えばいいのに。意図的に学校を選んでいるのでは？ 無作為ではないですよね。

- * P T Aの広報でアンケートをとればおもしろいでしょうね。実際に選択制で生徒数が増えた学校でアンケートをとったらどうなるか。どういう理由で選択したかとか、教育委員会のアンケートと同じ設問内容でもいいから。
- * 「10.学校選択制は、地域の教育活動に大きな影響を及ぼすと思われますか？」という項目についてなんですが、どんな影響があると考えているのかが具体的に見えない。松戸市の教育改革市民懇話会では、選択制を導入する時には慎重にやらないと、地域を壊す危険性もあるという意見が多数意見だった。それなのに、こんな簡単な質問と回答で、「小・中学校とも選択制の導入が地域の教育活動に大きな影響はないと思われます」と結論付けてしまうなんて、ひどい。これでは、教育委員会は本当に何の影響もないと考えているということじゃない。どう考えたって、影響はあるはず。本当ならば、「という理由で学校選択制を導入したい。導入すると地域のつながりが希薄になるという危険性があるから、そのことについてはこういう手だてをします」というふうにするのが、行政としてのきちんとした対応だと思う。
- * 教育委員会は、この影響の中身をどのように考えているのだろうか。どういうことを想定して、このような質問をしたのだろう。
- * 学校選択制が地域にどのような影響を及ぼすかというのは、実施されてすぐではまだわからない。
- * このことはアンケートで保護者に質問するのではなく、教育委員会自らが調査していかななくてはいけない。2・3年の経過を見て、各学校長や先生に話を聞くというような聞き取り調査をしていかななくてはいけない。
- * アクションプランでは、学校選択制は5年間のサンセット方式で、その後きちんとした評価をした上で、検討するということだったはず。でもこんなやり方ではきちんとした評価などできない。
- * 5年たった時に、大した検討もせずに「やっぱり続けましょね」となるのではないかな。
- * 教育改革アクションプランは良さそうなことばかり書いているけれど、あんなに盛りだくさんで全部実施できるかどうか。


学区外の学校へ行ったら、親も孤立感が強くなる

-
- * P T Aの意義も知らない、P T Aは学校のお手伝いをするところと思っている親が多くなっている今、選択制が導入されたら、親はバラバラにされてしまう。
 - * 親だって住んでいる地域ではないところの学校へ行ったら、P T A活動に関わらない限りは他の親との接点は全くない。学区外の学校へ行ったら、親も孤立感が強くなる。
 - * P T Aに関わる人も少なくなっている中で、孤立した親がどんどん増えていくのではないかな。選択制が続いていったら、いろんな形で影響が出てくると思う。
 - * 選択制の前に、習熟度別授業(=少人数授業)が入ってきましたね。
 - * 習熟度別授業というのは、教える側の効率の良さを考えてのことでしょう。同じようなレベルの子を集めた方が教えやすい。それと、できる子はどんどん進めさせてあげ

たいということでしょう。

- * 文科省や松戸市は、そういう少人数授業をやりたいわけでしょう。それなのに、選択制で生徒数の増えた学校では、少人数授業をやるための余裕教室があるのでしょうか。
- * 教室がなかったら、同じ教室の中でグループ分けしてやるということをするのかも。
- * 習熟度別授業の内容はどんな違いがあるんでしょうね。授業の進め方が早い・ゆっくりというだけではなく、基礎的な学習・応用問題までやるというような違いがあるのでしょうか。それと、評価はどうしているのでしょうか。ちょっとわかりませんね。
- * 学校によって取り組み方が違うのでしょうかね。
- * できる子・できない子の格差が非常に早いうちから広がっていきますね。できる子への配慮・優遇が増えている。そのできるという内容といえば、藤田恭平さん言うところの『受験学力』。生きるための学力ではない。

リスクまで説明するのが説明責任

- 
- * 医療の場では、例えば手術をしたときにこんなリスクがありますということまで説明されます。怖いくらいに。でもそこまで説明するのが説明責任を果たすということ。その上で患者は自分で治療方法を選択する。
 - * 教育委員会が学校選択制を導入した時のデメリットを説明しないのは、説明責任を果たしたとはいえない。
 - * 情報の共有なくして、責任だけを市民に転嫁するのは全くひどいやり方。今の日本のやり方は全部そう。
 - * 医療の場では、一人の医者の説明だけではなく、患者が自己決定にいたるまでにはセカンドオピニオンというのもある。自分のカルテをもらって行って他の医者にご相談する。そういうしくみもできている。教育行政でいったら、第三者の意見を聞くということかな。
 - * 公教育の場合は、どこの学校へ行っても同じ条件が揃ってはいけなくはないはず。それが平等ということ。平等なくして自由だといってもね。
 - * 公教育の中で保障されているといったら、教科書代がゼロということくらい？ その教科書も選べない。あと授業料無償。
 - * 私たちの税金で行っている教育なのよね。